

2021年9月7日

## 当社社員の緊急搬送事案について

当社スポーツ局のスタッフ10名が緊急事態宣言下における東京都の要請及び社内ルールを無視し、深夜から未明にかけて飲酒を伴う宴席を飲食店で開き、当社社員1名が誤って店の外に転落して負傷した件に関しまして、不要不急の外出等の自粛を呼びかける立場にありながら著しく自覚を欠く行動があったことを深く反省しております。緊急事態宣言下で尽力されている皆様をはじめ、店舗など関係各位に多大なご迷惑をおかけしたことを改めて深くお詫び致します。

当社では、事案発生直後すみやかに関係各部署の担当役員・局長からなる「緊急調査チーム」を設置し、対応に当たってまいりました。このほど、関係者への複数回にわたる聴取による事案の詳細の確認、10名のうち当社社員6名への社内処分、および再発防止策の策定を行いましたので、ご報告させていただきます。

---

### 事案の経緯

10名はいずれも当社スポーツ局所属で20代、社員が6名、社外スタッフが4名。うち社員5名が8月上旬、当社オリンピック番組の打ち上げとオリンピック後に異動する1名の送別会目的で8日の宴席をメッセージアプリ等で約束した。残る5名には当日の仕事終わり等に声をかけ、合わせて10名となる。

8月8日午後8時：六本木の飲食店にて参加者6名で宴席を開始。その後、負傷した社員（以下当該社員）を含む2名が加わる。午後11時過ぎまで飲酒を伴う飲食。

午後11時半：8名全員が渋谷のカラオケ店に移動し二次会。9日午前2時ごろ2名が加わり10名となる。カラオケ店では6階の個室で飲食と歌唱。

午前3時半：当該社員が一人だけ帰宅の意思を示し、個室を出る。社員2名が個室の外まで出てエレベーターの方向に歩いている当該社員を見送る。従って、当該社員以外の9名は当該社員の転落、搬送を目撃していない。

### 当該社員からの聴取内容

- ・疲労がたまっていて、酔いが回ってきた意識があり、周りに迷惑をかけてはいけないと思ひ、皆より先に帰ろうとした。
- ・他のお客さんと乗り合わせるのを避けようとエレベーターではなく非常階段を使った。
- ・はっきりとは覚えていないが、外に出られないと思ひ込み、隣のビルの壁や看板をつたって降りようと考えたのだと思う。
- ・何かをつかんだ後に落ちてしまい、その瞬間に激痛が走って、通行していた方に助けを求めた。

2階から転落した当該社員は緊急搬送されて入院した。左距骨骨折で補助器具なしでの歩行までおよそ半年の診断。手術を経て先ごろ退院し、現在はリハビリを開始した段階。

---

当社ではコロナ感染が拡大した直後から、「新型コロナウイルス感染防止策」という形で社内ルールを明文化しており、その中で「宴席は厳禁」としています。スポーツ局でも局独自のガイドラインを作成して社内ルールを日ごろから周知徹底していたほか、局員全員が参加する月1回の局会でも確認をしていました。

今回、宴席に参加した10名も、このルールは認識していましたが、「少しならよいではないか」「今日ぐらいいいのでは」という甘えがあったとしています。10名は現在では、今回の行動が、社会のルール、会社のルールを逸脱し、放送メディアの一員としての自覚に著しく欠如したものであることを猛省しています。なお、10名とも緊急事態宣言下での宴席は、今回が初めてだったとしています。

また、事案発生後10名にはPCR検査を行い、全員が陰性と判定されています。

事案の経緯が確認されたことから、当社は10名のうち社員6名について謹慎10日間の処分としました。また、スポーツ局長及びスポーツセンター長について管理監督責任を問い減給1か月の処分としました。さらに、スポーツ局統括の亀山社長、スポーツ局担当の浜島常務から、今回の事案を踏まえて役員報酬を10%、1ヵ月返上の申し出がありました。

社外スタッフ4名については、それぞれの派遣元会社に適切な対応をお願いしました。

事案発生後、当社では緊急事態宣言下における社内ルールを改めて徹底しました。また、こうしたことを二度と起こさないよう、今後様々なフェーズで研修などを行い、若手社員には、社会人として、またテレビ局の社員として働くことの責任を改めて意識づけ、再発防止を図ります。

●役員による研修の実施

- ・5年目以下社員を対象
- ・社会的規範、就業規則及びそれに準じる社内ルール順守の徹底
- ・過去事例を踏まえて、放送に携わるものとしての社会的責任などを再認識させる

●情報伝達の徹底

- ・会社の意思決定や指示、連絡が、的確かつ速やかに社員全体に伝わるよう、従来の情報伝達のあり方を見直し、局長、部長主導により各部署での仕組みを再構築する

当社といたしましては、事案の調査から判明した当社若手社員に生じていた甘え、その甘えを原因とした、報道機関で働いているという自覚を著しく欠いた行動を真摯に受け止め深く反省しております。上述した再発防止策などを通じて、改めて社員教育を徹底していくことで、視聴者の皆様の信頼回復に努めてまいります。改めまして、多大なご迷惑をおかけした皆様に深くお詫びいたします。

以上

テレビ朝日  
広報部